**2020年度大阪女学院法人事務局事業計画**

**Ⅰ．管理運営**

**１．学校法人のガバナンス強化に基づく運営体制の整備**

(1) 監事の機能強化と監査体制の整備

監事監査規程に基づき、監事監査の年間計画を策定し、業務監査及び会計監査を着実に執行できるよう、事務局のサポート体制を整備する。また独立監査人（有限責任監査法人トーマツ）と連携し、監事ミーティングや会計監査等を通して、監事と意見交換ができる機会を増やす。教学監査についても、監事が学院行事や普段の学院の様子、施設設備状況等について監査する機会を年間通じて設定する。また、昨年度より開始した職員による内部監査の取り組みについて、2020年度も重点対象項目を設定し、着実に機能させる。いずれの監査についても、監事、独立監査人（有限責任監査法人トーマツ）、内部監査委員が相互に連携し、実施する。

　　 (2) 役員責任の明確化と周辺規程の整備

　　　　　　　　　私立学校法改正を踏まえて、寄付行為及び関連規程の改正を行ったが、役員の責任を再確認し、

　　　　　　　　 役員が委縮せずに意思決定を下せるように環境整備を行う。また役員を対象にした研修の機会を

設けたり役員相互の良好な意思疎通のため懇談会の開催についても検討し、実施する。

**２．財政支出に関する取り組み**

今年度も、第Ⅲ期中期計画の財政基本方針に基づき、施設設備の補修等を推進する。また、将来の学院運営に必要な引当特定資産の積立を行い、中長期的に安定した学院運営の仕組みの定着に努める。そのために、収入に見合う（生徒・学生数の増減に対応する）支出管理の考え方を更に推し進める。

**３．施設・設備の整備計画と管理**

2019年度の体育館フローリング、テニスコート、電気室改修に引き続いて、経年劣化が進むキャンパス内の施設設備の必要な補修について、優先順位により整備計画を立てて実行する。

**４．危機管理体制の構築**

防災備蓄品として学院キャンパス内に貯蔵しておく必要な備蓄品について、さらに充実を図り、地震や台風等の大規模災害時に対応できるよう準備を着実に進める。また災害発生時に、近隣の学校や施設との連携についても協議、検討を進める。

**５．事務職員の働き方**

(1)　働き方改革を受けて、昨年度にICカードを導入し試行した時間管理システムを本格的に運用し、健全な労務管理を目指して、教職員の時間管理を進める。また、事務職員の時間外労働の短縮と労働環境の整備を進める。

(2) 事務職員が将来のキャリアアップをイメージできる仕組み作りを推進する。そのために、研修機会を出来るだけ増やし、次世代を担う職員が運営企画や実施状況の把握などに参画し、実質的な運営管理の一部を担う仕組みを拡充する。

**Ⅱ．改革・改善**

**１．研修プログラムの充実と職員の養成**

　 昨年度に引き続いて、大学等の高等教育機関で推進されるStaff　Development（SD）の動きを踏まえ、職員養成のための研修を学院全体の職員に拡大して実施する。

(１)　目標管理制度を継続する中で、評価者と被評価者の目標管理に対する意識を高め、評価制度の一

段の充実を図る。目標管理項目の中に、研修の取り組みとその成果を加える。

(2) 職員研修プログラムの企画・実施

個人別の研修プログラムを企画立案し、管理職研修、実務におけるテーマ別研修、学院外での研修、ワークショップ型の外部研修プログラム等への参加を促す。また教育研究センターの年間を通した定期的なセミナーを研修の中に位置づける。

**２．事務部門の業務の推進**

　 　私立学校を取り巻く経営状況が年々厳しくなる中、学院事務の業務の見直しも求められている。日常業務の見直しを行い、業務の平準化や相互補完を推進し、部門間の異動など人的資源の流動化を可能にする体制を構築するため、必要な検討を行い実施する。またICT化に向けた取り組みも進める。

また、事務局間の重複業務を精査し、事務の効率化や簡素化について検討し、将来的な事務の一元化に向けての取り組み検討を行う。

**３．第Ⅲ期中期計画の推進**

VISION OJ140をベースに、第Ⅱ期中期計画（2016～2019年度）を評価した上で、昨年度に策定した第Ⅲ期中期計画（2020～2024 年度）を学院内に周知徹底の上、中期計画の進捗状況を点検しつつ着実に推進する。

**Ⅲ．教育研究センターの取り組み**

**1. 方針**

2014年度から新しい名称のもとに、機能、活動内容、運営体制を整えてきた本センターは、次世代スタッフの養成、学院広報の強化、教育研究の新規企画、学院史資料室（以下、史料室）の整備等に重きを置いて事業活動に取り組んできた。

本年度も引き続き、変化する教育環境、国の教育行政、国際的な教育改革を見据えつつ、多様な情報を収集するとともに、蓄積した歴史資料を活かして、学院の将来あるべき方向を総合的に探る研究・提言活動を通して、学院各校部の連携を積極的にサポートする。将来は“総合研究所”（R&D）の構築をめざす。

**2. 計画**

(1) 教育研究セミナーの開催

大阪女学院の過去を振り返りつつ、学院の将来あるべき姿を発題(外部講師含む)を通し、

参加者で話し合い、考えていく場とする。

年間テーマ：「これからの大阪女学院を考える」

開催日：年6回程度

(2) ニューズレターの発行（年2回予定）

(3) 史料室の管理・運営

本学院の沿革史編纂にかかわる諸史料の収集・整理・保管（刊行物、報告書、記録、

図版類、写真、アルバム、関係書籍、画像、新聞掲載紙、個人文書など）

(4) 史料の公開

オープン展示室の準備・設立・開設

①常設展示

常設展示室設置に向けた準備

②企画展示（年2回　オープン展示室ができるまでは、図書館予定）

(5) 調査・研究

①特定時期（あるいは出来事）に焦点を当てた調査・研究

②150周年記念誌編纂委員会の規程作りと開催

③「ウィリアム・エルダー宣教師 in 沖縄」の冊子づくり

④ 冊子発行に向けた準備

(6) ネットワーキング

地域社会および関係機関・団体との協働、文化的な貢献

大阪女学院での会場校開催によるネットワーキング

(7) 学院全体の広報への協力

『ハイライツ』(法人事務局）の編集協力

(8) 学院全体の教育活動の推進

①キリスト教教育

キリスト教教育連絡会を核にしたキリスト教教育推進の援助

②平和・人権教育

③英語教育

英語教育に関するUCとJSの連携協力へのサポート

ウヰルミナジュニアカップの継続、協力

④女子教育

(9) 新規取り組みへの始動

①ボランティアセンター設立へ向けての準備

　　 月1回程度のボランティア活動に関する連絡会設置

　　　 ボランティアに関する学生の自主的な活動への援助

②教職員対象の研修へ向けたサポート

③ ヘールチャペルのオープンセミナーの開催